

フィリピンのスラム街は、首都マニラやセブ、ダバオといった大都市を中心に多く見られます。そこでは急速な都市化や経済格差の影響を受けて、農村部から仕事を求めて移住してきた人々が密集して生活しています。

フィリピンの現状

1750万人

フィリピンの人口の15.5%、約1750万人の人々が、5人家族で1か月12,082ペソ(約27,000円)以下で暮らしています。(世界銀行・2023)

フィリピンの子ども(5~17歳)の約59万7千人が児童労働をしているとされています。(フィリピン政府・2020) ※児童労働とは、義務教育を妨げる労働や、法律で禁止されている18歳未満の危険・有害な労働のことです。

1人/40人

1人/3人

フィリピンの子どもの3人に1人は、義務教育を終えられません。(UNESCO・2025)

フィリピンのスラム街には移住者が増え続けるため、改善が追いつかない。短期的な物資支援だけでなく、教育・雇用を通じた自立支援が不可欠という課題があることがわかりました。



JWC 慈善活動の今後の展望

フィリピンのスラム街で暮らす子供たちは、日々厳しい環境の中でも夢を失わず、未来を信じて生きています。私たちの活動は、その小さな希望に寄り添い、教育・食・安心できる居場所を届けることから始まりました。これから先も、一時的な支援で終わるのではなく、子供たちが自らの力で未来を切り開けるような、持続可能な支援を目指してまいります。困難の中にあっても輝きを放つ子供たちの笑顔は、私たちに勇気を与えてくれます。その笑顔を守り、さらに広げていくために、これからも心をひとつにして歩み続けます。

JWCの慈善活動 ~フィリピン~

私たちJWCチームは、スラム街マニラ桜ライオンズクラブの



マニラ・ライオンズクラブは、フィリピンに所在するライオンズクラブで、1952年に日本最初のライオンズク

の子供たち支援を方々とスタートしました。

ラブである「東京ライオンズクラブ」のスポンサーとなり、日本におけるライオンズの発展の基礎を築いた歴史的なクラブです。



小さな一歩が、大きな未来をつくと信じて。

JWCは今後マニラ国際空港から南へ1時間ほど行った先にある日本語学校 JP TAKAHASHI TRAINING CENTER をサポートしていきます。ゆったりとした敷地の中には宿泊施設も備えられています。エスティション育成コースも併設予定です。

2025.02.16 NAPA COMPOUND SCHOOL



サクラライオンズクラブマニラとJWCの合同プロジェクトでマニラの南エリア、NAPA COMPOUNDの学校を訪れ、ランドセルと食料の支援をさせて頂きました。



02.17 JP TAKAHASHI TRAINING CENTER



将来日本で働きたいと、ここ TAKAHASHI SCHOOL でも子供たちが日本語を学んでいます。

02.19 Bacolod の孤児院



フィリピンの南の島、Bacolodの孤児院を訪ねました。大人になっても職のない孤児はここで過ごします。

